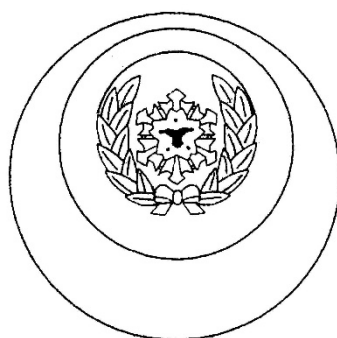


令和 8 年度

教育訓練実施計画



沖縄県消防学校

校訓

一 厳正な規律の保持

一 知識と技術の修得

一 体力と気力の錬成

沖繩県消防学校校歌

作詞 滝田常晴
作曲 翁長武俊

一 瑠璃色の海 見はるかし

緑したたる

中城

守礼の邦の 同胞を

火より水より 守り抜く

われら 沖繩県消防学校

学ぶゆくてに 誇りあり

二 炎熱の夏 荒ぶ冬

磨き鍛える 身と精神

いざことあらば さきがけて

錬磨の技に ぬかりなし

われら 沖繩県消防学校

励む月日に 誓いあり

三 デイゴの花の ふるさに

いそしむ日々の 雨や風

苦難を超えて たくましく

育む若木 実を結ぶ

われら 沖繩県消防学校

進むゆくてに 栄光あり

目 次

沖縄県消防学校教育訓練一覧	1
I 基本方針	2
II 教育訓練の種類	
1 消防職員に対する教育	2
2 消防団員に対する教育	3
3 その他の教育(消防防災関係者)	4
令和8年度消防学校教育訓練実施計画	5
令和8年度教育訓練日程表	6
令和8年度教育課程別諸経費内訳	8
令和8年度教育内容及び時間数	
1 消防職員に対する教育	
(1) 初任教育	9
(2) 専科教育	
① 警防科	1 2
② 予防査察科	1 3
③ 火災調査科	1 4
④ 救急科	1 5
⑤ 救助科	1 7
(3) 幹部教育	
① 初級幹部科	1 9
② 上級幹部科	2 0
(4) 特別教育	
① 水難救助研修	2 1
② 防火管理指導員研修	2 1
③ 新任救急隊員(救命士)研修	2 2
④ 救急隊長研修	2 3
⑤ 機関(指導員)研修	2 4
2 消防団員に対する教育	
(1) 基礎教育	2 5
(2) 幹部教育	
① 初級幹部科	2 5
② 指揮幹部科	2 5
(3) 特別教育	
① 現地教育	2 6
3 その他の教育(消防防災関係者)	
(1) 女性防火クラブ研修	2 6
(2) 自衛消防隊研修	2 6
付 録	
○ 関係書類作成要領	2 7
○ 案内図	3 5
○ 施設配置図	3 6

沖縄県消防学校教育訓練一覧

対象	種類	課程	実施年	
消防職員	初任教育		毎年実施	
	専科教育	警防科	隔年実施	
		特殊災害科	隔年実施	
		予防査察科	毎年実施	
		危険物科	隔年実施	
		火災調査科	隔年実施	
		救急科	毎年実施	
		救助科	毎年実施	
	幹部教育	初級幹部科	隔年実施	
		中級幹部科	隔年実施	
		上級幹部科	隔年実施	
	特別教育	水難救助研修	隔年実施	
		ポンプ操法指導員研修	隔年実施	
		防火管理指導員研修	毎年実施	
		新任救急隊員（救命士）研修	毎年実施	
		救急隊長研修	毎年実施	
		機関（指導員）研修	隔年実施	
	消防団員	基礎教育		毎年実施（2回）
		専科教育	警防科	隔年実施
		幹部教育	初級幹部科	毎年実施
			指揮幹部科	隔年実施
特別教育		操法科	隔年実施	
		急患搬送業務基礎研修	隔年実施	
		現地教育（移動消防学校）	毎年実施	
その他	その他の教育	女性防火クラブ研修	毎年実施	
		自衛消防隊研修	毎年実施（2回）	

令和8年度実施

令和8年度消防学校教育訓練実施計画

I 基本方針

消防学校で実施する教育訓練は、消防職員、消防団員及び消防関係者に対し、消防の責務を正しく認識させ、社会情勢の変化や技術の発展に的確に対応するために、住民から期待される水準を充たす消防に係る知識及び技能の効率的かつ効果的な習得を図り、もって適切公正、安全かつ能率的に業務を遂行できる消防職員、消防団員及び消防関係者の資質を高めることを目指し行うものとする。

II 教育訓練の種類

1 消防職員に対する教育

(1) 初任教育

新たに採用された消防職員に対し、職務遂行に必要な基本的知識と技術を習得させるとともに、人格の向上、体力と気力の練成、規律の保持、協同精神の醸成等の教育訓練を実施して、即戦力となる消防職員を養成する。

(2) 専科教育

複雑・多様化する各種の災害に対処するため、災害予防、救急処置、人命救助等の特定分野に関する専門職員を養成する。

① 警防科

警防業務の現状と課題を理解させ、指揮者に要求される各種災害事象に対する基本的な消防戦術、効率的な部隊運用、隊員の安全管理等の消防活動上必要な専門的知識と技術を習得させる。

② 予防査察科

予防査察業務の現状と課題を理解させ、防火管理、建築規制、違反処理、消防用設備等に関する基本的な権限に基づき、公正・公平に執行できる専門的知識と違反対象物に対する是正技法等を習得させる。

③ 火災調査科

火災調査業務の現状と課題を理解させ、火災原因調査、火災損害調査、鑑定等に関する基本的な権限に基づき、公正・公平に執行できる専門的知識と的確な判断力による調査書類の作成技法等を習得させる。

④ 救急科

救急業務の現状と課題を理解させ、救急医学に関する基本的知識と応急処置に必要な解剖生理及び各科の疾病状況に関する専門的知識・技術を習得させ、救急隊員の資格を取得させる。

⑤ 救助科

救助業務の現状と課題を理解させ、救助活動に関する専門的知識と技術を習得させ、救助隊員の資格を取得させる。

(3) 幹部教育

組織の管理を職務とする長及び消防部隊の長又はその予定者に対し、事務執行体制のあり方、消防活動時における消防部隊及び隊員管理に必要な知識と技術を習得させ、組織運営を効率的・効果的に推進する幹部職員を育成する。

① 初級幹部科

初級幹部としての責任と立場を認識させるとともに、消防行政の動向を踏まえた上司の補佐及び部下指導の技法を習得させる。併せて、災害現場において、現場指揮者の下命を正確に理解し、自隊に対する安全管理と的確な指揮技能を習得させる。

② 上級幹部科

上級幹部としての職責を認識させるとともに、業務管理、人事管理及び危機管理に関する知見を習得させる。併せて、職責遂行に必要な判断力を養い、組織を円滑に管理・運営する手法について考察させる。

(4) 特別教育

① 水難救助研修

水難救助業務に必要な知識と技術を習得させる。

② 防火管理指導員研修

自衛消防隊の指導に必要な知識と技術を習得させる。

③ 新任救急隊員（救命士）研修

救急科を修了していない救急隊員（救急救命士）に対して、救急業務の現状と課題を再認識させ、さらなる専門的知識と技術を習得させる。

④ 救急隊長研修

救急業務の現状と課題及び救急隊長の役割を理解させ、効率的・効果的な業務管理、現場指揮及び部下指導に必要な知識と技術を習得させる。

⑤ 機関（指導員）研修

機関員の指導に必要な知識と技術を習得させる。

2 消防団員に対する教育

(1) 基礎教育

地域防災の担い手としての任務を理解させ、消防組織の概要及び消防防災対策に必要な基本的な知識と技術を習得させる。

(2) 幹部教育

班長以上の階級にある者に対し、消防団の管理運営に関する知見を習得させるとともに、災害対応時における指揮及び団員への訓練指導並びに地域住民に対する防災指導に必要な知識と技術を習得させる。

① 初級幹部科

消防団初級幹部としての責任と立場を認識させ、消防団の運営に必要な規律、安全管理及び災害活動要領を習得させる。

② 指揮幹部科

分団の指揮者及び災害時における現場指揮者としての責任と立場を認識させ、消防団の管理運営に関する知見を習得させるとともに、安全管理及び的確な指揮技能を習得させる。

(3) 特別教育

① 現地教育

消防学校教官等を現地訓練要請町村（消防非常備町村）へ派遣し、消防団活動に必要な知識と技術を習得させる。

3 その他の教育(消防防災関係者)

(1) 女性防火クラブ研修

女性防火クラブ員等に対し、消防に関する知識及び技術を習得させる。

(2) 自衛消防隊研修

防火管理者講習を修了した者に対し、消防用設備、消火器具及び避難器具等の取扱訓練を実施し、防火管理上必要な知識と技術を習得させる。

令和8年度 教育訓練実施計画

教育種別		入校日	修了(卒業)日	延日数	実日数	教育時間	対象		
								教育科別	
消防職員	初任教育(第58期)		令和8年4月6日(月)	令和8年9月24日(木)	172	114	800	新たに採用された消防吏員	
	専科教育	警防科(第36期)	令和8年11月9日(月)	令和8年11月20日(金)	12	10	70	消防士長以上の階級にある者であって、部隊の長となる者	
		予防査察科(第22期)	令和8年10月19日(月)	令和8年10月30日(金)	12	10	70	予防業務に従事している者又はその予定者	
		火災調査科(第11期)	令和8年12月7日(月)	令和8年12月18日(金)	12	10	70	予防業務に従事している者又はその予定者	
		救急科(第65期)	令和8年10月5日(月)	令和8年11月27日(金)	54	37	259	救急業務に従事しようとする者	
		救助科(第25期)	令和9年2月9日(火)	令和9年3月10日(水)	29	20	140	救助業務に従事しようとする者	
	幹部教育	初級幹部科(第23期)	令和9年1月18日(月)	令和9年1月29日(金)	12	10	70	消防士長の階級にある者又は昇任予定者	
		上級幹部科(第11期)	令和8年6月3日(水)	令和8年6月5日(金)	3	3	21	課長等以上の職制にある者又はその予定者	
	特別教育	水難救助研修(第25期)	令和8年9月29日(火)	令和8年10月16日(金)	18	13	91	水難救助業務に従事しようとする者	
		防火管理指導員研修(第16期)	令和9年2月1日(月)	令和9年2月5日(金)	5	5	35	防火管理者指導業務に携わる者	
		新任救急隊員(救命士)研修(第11期)	令和8年12月14日(月)	令和8年12月23日(水)	10	8	56	救急科を修了していない救急救命士	
		救急隊長研修(第6期)	令和9年1月25日(月)	令和9年1月29日(金)	5	5	35	消防士長以上の階級にある者であって、救急業務に従事する者	
		機関(指導員)研修(第1期)	令和9年3月15日(月)	令和9年3月19日(金)	5	5	35	消防士長以上の階級にある者であって、機関員指導に携わる者	
	消防団員	基礎教育(第49期、50期)(2回実施)		(第49期) 令和8年10月2日(金) (第50期) 令和8年11月4日(水)	(第49期) 令和8年10月4日(日) (第50期) 令和8年11月6日(金)	3 (6)	3 (6)	21 (42)	全ての消防団員
		幹部教育	初級幹部科(第11期)	令和8年12月2日(水)	令和8年12月4日(金)	3	3	21	班長以上の階級にある者又はその予定者で消防団員基礎教育を修了した者
指揮幹部科(第7期)			令和8年7月29日(水)	令和8年7月31日(金)	3	3	21	班長以上の階級にある者又はその予定者で消防団員基礎教育を修了した者	
特別		現地教育(移動消防学校)	町村との調整により決定						消防本部の設置されていない町村の消防団員
その他	女性防火クラブ研修(第30期)		令和9年3月24日(水)	令和9年3月25日(木)	2	2	14	全ての女性防火クラブ員	
	自衛消防隊研修(第50期、第51期)(2回実施)		(第50期) 令和9年2月3日(水) (第51期) 令和9年2月4日(木)		1 (2)	1 (2)	7 (14)	主として甲種防火管理者講習を修了した者	
計	19課程								

令和8年度 教育訓練日程表

令和8年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
	4月 入校式典 初任教育 実日数 114日 時間数 800時間 昭和の日 実務研修																														

5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	実務研修 憲法記念日 みどりの日 こどもの日 振替休日 初任教育 実日数 114日 時間数 800時間																														

6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
	上級幹部科 実日数3日 時間数21時間 慰霊の日 初任教育 実日数 114日 時間数 800時間																														

7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
	海の日 初任教育 実日数 114日 時間数 800時間 初任所属実務研修 7/27~7/31 消防団指揮幹部科 実日数3日 21時間																														

8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
	山の日 初任教育 実日数 114日 時間数 800時間																														

9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
	振替休校 卒業式典 退寮 敬老の日 国民の休日 秋分の日 振替休校 初任教育 実日数 114日 時間数 800時間 (9/19) (9/20) 卒業日 水難救助研修 実日数13日 時間数91時間																														

10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	団基礎教育 実日数3日 21時間											スポーツの日	予防査察科 実日数10日 時間数70時間																		
水難救助研修 実日数13日 時間数91時間											救急科 実日数37日 時間数259時間																				

11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
			文化の日	実務研修		警防科 実日数10日 時間数70時間																勤労感謝の日								
		消防団員 基礎教育 実日数3日 21時間											救急科 実日数37日 時間数259時間																	

12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
	消防団員初級幹部科 実日数3日 21時間											新任救急隊員(救命士)研修 実日数8日 時間数56時間																			
火災調査科 実日数10日 時間数70時間																															

令和9年 1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	元日											成人の日	初級幹部科 実日数10日 時間数70時間																		
救急隊長研修 実日数5日 時間数35時																															

2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	防火管理指導員研修 実日数5日 35時間											建国記念日											天皇誕生日					
自衛消防隊研修 1日×2回											救助科 実日数20日 時間数140時間																	

3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
	救助科 実日数20日 時間数140時間											機関(指導員)研修 実日数5日 時間数35時間										春分の日	振替休日	女性防火クラブ研修 実日数2日 時間数14時間							

令和8年度 教育課程別諸経費内訳 (令和8年4月1日一部訂正)

教育種別		延日数	実日数	調査研究費	食費	雑費	合計	備考		
教育科別										
消防職員	初任教育(第58期)		172	114	180,506	156,480	65,744	402,730	調査研究費は、学生に支給する教材(教科書等)の購入費及び印刷製本費等である。初任教育には、県外の消防施設の視察研修及び無線免許取得(第三級陸上特殊無線技士)のための費用等が含まれている。 食費は日額1,650円(朝450円、昼570円、夕630円)で、積算は教育訓練実日数で算出した。ただし休校日前日の夕食のほか、実務研修の際の朝昼夕食等は給食しない。 雑費は、入校中における生活必需品等の消耗品費、諸行事費用、事務費等である。なお、女性防火クラブ研修、自衛消防隊研修には傷害保険料が含まれている。	
	専科教育	警防科(第36期)	12	10	8,945	14,790	8,315	32,050		
		予防査察科(第22期)	12	10	21,128	14,790	8,315	44,233		
		火災調査科(第11期)	12	10	30,862	14,790	8,315	53,967		
		救急科(第65期)	54	37	37,896	51,630	18,407	107,933		
		救助科(第25期)	29	20	21,520	28,140	12,318	61,978		
	幹部教育	初級幹部科(第23期)	12	10	10,080	14,790	8,315	33,185		
		上級幹部科(第11期)	3	3	5,549	3,870	5,888	15,307		
	特別教育	水難救助研修(第25期)	18	13	12,950	16,260	9,550	38,760		
		防火管理指導員研修(第16期)	5	5	885	7,170	6,484	14,539		
		新任救急隊員(救命士)研修(第11期)	10	8	33,657	11,490	7,719	52,866		
		救急隊長研修(第6期)	5	5	16,677	7,170	6,484	30,331		
		機関(指導員)研修(第1期)	5	5	3,844	7,170	6,484	17,498		
	消防団員	基礎教育(第49期、50期)(2回実施)		3	3	2,427	3,870	5,888		12,185
		幹部教育	初級幹部科(第11期)	3	3	909	3,870	5,888		10,667
指揮幹部科(第7期)			3	3	909	3,870	6,878	11,657		
特別	現地教育(移動消防学校)			-	-	-	-			
その他	女性防火クラブ研修(第30期)		2	2	3,180	2,220	6,590	11,990		
	自衛消防隊研修(第50期、第51期)(2回実施)		1	1	3,677	570	870	5,117		

令和8年度 教育内容及び時間数

1 消防職員に対する教育

(1) 初任教育

自 令和8年4月6日(月)
至 令和8年9月24日(木)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
倫理	現代社会と消防	消防の本質と消防職員の任務	5	学校職員
	地域社会と消防	自治体消防の沿革と基本		
	消防職員の使命	消防の社会的使命と責任		
		公務員倫理		
法学基礎 消防法	消防行政と法	法治主義の原則、法の統一的運用と解釈	8	学校職員 外来講師
	法の分類	法の存在形式、成文法の形式的・実質的分類		
	法の効力と適用	法の効力範囲、法の適用と解釈		
	法律関係	権利の種類と行使、義務の種類と履行		
	行政法	体系、行為、手続き、行政強制と行政罰	10	学校職員
	法の体系	消防関係法令の体系		
	消防法の目的	目的と用語の定義		
主要規定の概要	火災予防、危険物、消防用設備、火災警戒、消火活動、火災調査及び救急業務の各規定、雑則及び罰則	2	学校職員	
効果測定	法学基礎(1)、消防法(1)			
消防組織制度	地方自治制度	地方自治の意義、法体系、条例と規則	9	学校職員
	自治体消防制度	消防制度の沿革、消防の任務と法体系		
	消防の組織	国、県、市町村の組織、消防責任、消防財政 他機関との関係、緊急消防援助隊制度		
	効果測定			
サービスと勤務	地方公務員制度	地方公務員制度の基本理念、権利、義務責任	6	外来講師
	消防実務	消防の組織、勤務形態と業務内容	2	消防職員
	消防職員の勤務条件	給与制度、勤務時間、休日及び休暇等、公務災害補償制度、安全衛生、消防職員委員会制度	15	学校職員 外来講師 消防職員
	文書事務	文書の機能、種類、決裁、公文書作成		
	情報公開と個人情報保護	情報公開制度、個人情報保護制度		
	接遇	接遇の基礎、電話や来訪者への対応、災害現場における接遇		
	事故防止	交通安全、社会生活上の問題対応		
	人権啓発	差別の実態と歴史、最近の人権問題		
	消防英語	消防関係用語、災害対応会話		
	効果測定	地方公務員制度(1)	1	
理化学	物理	力と運動、個体の性質、液体と気体の性質、物体の熱的性質、熱の伝わり方	2	外来講師
	電気	電気の基礎知識	2	
	化学	化学の基礎、化学変化の概要、実験	5	
	燃焼と消火	燃焼の基礎知識、消火理論と消火剤、実験		
	効果測定		1	
予防広報	防火管理	防火管理の意義、防火・防災管理制度、統括防火・防災管理制度	10	学校職員
	消防広報	消防広報の概念、広報・公聴活動 災害現場広報、消防広報と人権	5	
	自主防災	自主防災組織の活動、防災指導実施要領	4	
	効果測定	防火管理	1	

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
危険物	消防法上の危険物	危険物の範囲、特性、各類危険物の概要	15	学校職員
	危険物施設	規制の概要、設置・変更の許可、保守管理		
	指定可燃物等	指定可燃物、消防活動阻害物質、少量危険物		
	効果測定			
消防用設備	消防用設備の規制概要	消防用設備の種類、防火対象物、設置単位	11	学校職員
	消防用設備の基準概要	消火・警報・避難設備、消火活動上必要な施設		
	着工届及び検査等	検定制度、消防設備士、定期点検報告制度		
	効果測定			
査察	総則	査察の概念と法的根拠、査察執行上の留意事項	23	学校職員
	査察要領	査察上の特異性、着眼点、立入検査マニュアル		
	違反処理	査察結果の処理、違反処理マニュアル		
	査察実習	模擬査察、防火対象物見学		
効果測定				
建築	建築構造・法令・規制	建築構造の分類、建築基準法の体系と構成、確認申請と消防同意、構造制限と防火区画	7	県職員
	効果測定		1	
安全管理	安全管理、精神衛生	意義、活動別安全管理、メンタルヘルス	16	学校職員
	効果測定			
特殊災害保安	特殊災害概論	概要、活動の原則	2	県職員
	放射線とアイソトープ	放射線、放射性同位元素、放射線の危険性	2	
	毒劇物	毒劇物の種類・危険性	2	
	火薬類	概要、主な火薬類	2	
	高圧ガス	概要、主な高圧ガス	2	外来講師
火災防ぎよ	火災防ぎよの概要	消火の原則、消防戦術、警防計画、装備の活用、部隊運用	30	学校職員 消防職員
	火災防ぎよ行動	出動準備、覚知と出動、現場到着と水利部署、ホース延長、筒先配備、注水要領、破壊要領、進入要領、救出要領、水損防止、飛び火警戒、残火処理等		
	建物火災防ぎよ	建物構造別、建物態様別、地域態様別の火災		
	建物以外の火災防ぎよ	車両、船舶、航空機、その他の火災		
	特殊建築物火災防ぎよ	国宝・重要文化財（建築物）等の火災		
	効果測定			
火災調査	火災調査概要	火災調査の目的、責任及び権限	15	学校職員
	火災調査実務	原因調査、損害調査、火災調査書類		
	効果測定			
防災	気象と災害	気象の基礎知識、注意報と警報、台風	8	国職員
	災害対策	災害対策基本法、防災組織と責任、防災計画 緊急消防援助隊の概要、災害救助犬の活用 外国人の避難支援	8	学校職員 消防職員 外来講師
	水災防ぎよ	水防責任、水防工法、防災訓練、台風対策	6	
	効果測定		1	
救急	人体知識	骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系	50	学校職員
	救急実務	救急業務の沿革、意義、体制、責務、関係法令		
	救急実技	応急処置法、傷病別応急処置		
	効果測定	学科、実科		
消防機械	消防用自動車等	緊急自動車の定義と要件、交通事故防止対策 消防用自動車等の分類と用途、通信運用	9	学校職員
	消防ポンプ	ポンプ、水力学、ポンプ運用		
	効果測定		1	

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
訓練礼式	点検、礼式、訓練	通常点検、敬礼・申告、各個訓練、小隊訓練	50	
	効果測定	学科、実技		
消防活動訓練	訓練の概要	訓練の目的と安全管理	68	学校職員
	ポンプ操法	小型ポンプ操法、消防学校ポンプ車操法 筒先配備、内部進入、放水要領、撤収要領		
	検索及び救出	検索の基本、検索要領、救出及び搬送要領		
	警戒及び広報	警戒区域設定要領、現場広報要領		
	効果測定	学科、実科	14	
救助訓練	概要	救助の意義、救助活動、安全管理	45	
	ロープ取扱技術	小綱、ロープ、カラビナの諸元・性能、 ロープの巻き方、携行要領、各種結索法、 懸垂線及びブリッジ線設定要領		
	行動基礎	降下法、登はん法、渡過法、確保要領		
	効果測定	学科、実科		
機器取扱訓練	各種資器材の諸元・性能・取扱及び点検要領	吸水・放水器具、はしご、とび口、 空気呼吸器、ガス測定器、投光器、 エンジンカッター、空気鋸、可搬式クレーン、 空気式救助マット、防水シート、その他	55	学校職員
	効果測定	学科		
消防活動訓練	消火活動訓練	情報収集、ホース延長、筒先配備、内部進入、 注水、水損防止、現場広報の各要領	85	
	救助活動訓練	かかえ救出、応急はしご救出、1カ所吊り 救出、はしご水平救出、濃煙内検索救助		
	火災総合訓練	木造・防火造建物火災、耐火造建物火災、 林野火災、車両火災、その他の火災		
	救急救助総合訓練	建物倒壊救出、土砂埋没救出、交通事故挟まれ・ 下敷き救出、集団救急事故救出、その他 〔大規模災害想定訓練、救助技術指導会等〕		
体育	体育理論と実技	健康と体力、体力づくり、運動の生理、 トレーニング計画、筋力・持久力・調整力 及び柔軟性トレーニング要領(12H)	42	学校職員(38H) 外来講師(4H)
	障害の予防等 疲労回復	スポーツマッサージ、アイシング、テーピング(4H)		
	効果確認	消防体育会(7H) 耐久走(7H)、体力測定(4H×3回)		
	基本泳法	クロール・平泳、潜行、水難救助の基礎、着衣泳	13	
実務研修	消防署勤務実習	当直勤務(2回)、毎日勤務(1回)	35	所属消防職員
選択研修	社会教育	税入門	1	国職員
		ハブ対策	3	県職員
	資格取得教育	海洋危険生物	2	
		無線通信(委託講習)	7	外来講師
	水難救助(委託講習)	28	外来講師	
行事その他	式典	入校式、卒業式	2	学校職員
	実科査閲	消防活動総合訓練(卒業展示訓練)	2	
	施設見学	県外消防施設設備等視察	21	
	講話	業務講話	2	消防長
		社会講話	1	消防協会長
	その他の行事等	オリエンテーション(8H)、環境整備(12H)	20	学校職員
合計			800	

(2) 専科教育

① 警防科

自 令和 8年11月 9日 (月)

至 令和 8年11月20日 (金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師	
講 話		職責と心構え	1	学校職員	
警 防 行 政	人 事 業 務 管 理	階級と職責	1		
防 災	災害対策基本法の概要	災害予防、災害対策、応急復旧、防災訓練等	2		
警 防 対 策	火 災 防 ぎ よ 通 論	火災防ぎよ活動における指揮の要点と安全管理	4	外来講師	
	建 物 火 災 防 ぎ よ	耐火建物、防火建物、木造建物の火災の特性、防ぎよ行動等	2	消防職員	
	特 殊 火 災 防 ぎ よ	その他の火災防ぎよ(火災事例等含む)	2	消防職員	
	現 場 指 揮	指揮本部の運営要領 (指揮隊の活動要領)			4
		図上訓練 (建物火災)		4	学校職員
		指揮通論		2	
	特 殊 災 害 対 策	BC災害対策と事例		3	消防職員
	緊 急 消 防 援 助 隊	精度の概要と部隊運用の考え方		1	学校職員
	安 全 対 策	警防活動における安全管理体制		1	
	事 例 研 究	法制通論等事例研究		3	外来講師
災害活動事例		2	学校職員		
実 技 訓 練	基 本 訓 練	火災救助訓練	4	学校職員	
	応 用 訓 練	梯子車を活用した中層建物火災想定訓練		4	消防職員
		耐火建物火災想定検索救助訓練		4	
		建物火災防ぎよ (低層建物想定)		4	
		林野火災防ぎよ(長距離ホース延長訓練)		4	
		消火設備・避難設備・警報設備等活用訓練		2	学校職員
		消防活動訓練		3	学校職員
		総合訓練、検証、資器材整備		6	学校職員
健 康 管 理	メンタルヘルス対策		2	外来講師	
訓 練 礼 式	点 検 ・ 礼 式	訓練礼式の目的、指揮要領	2		
行 事 そ の 他	入校式、修了式、オリエンテーション		3		
合 計			70		

② 予防査察科

自 令和 8年10月19日(月)

至 令和 8年10月30日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		職責と心構え	1	学校職員
予防査察行政の 現状と課題		予防査察行政の現状と課題と予防広報	2	学校職員
		消防関係法令の改正内容		
消 防 同 意	消 防 同 意 の 概 要	建築行政と消防行政との関係	3	消防職員
		消防同意制度		
		防火に関する建築規制		
		消防同意の要領と留意事項		
防 炎 講 座		防災制度・防災技術・防災の効果等	3	防災協会
査 察 要 領	査 察 要 領	防火管理と査察要領(4H)	30	消防職員
		警報設備<令21~24>(4H)		
		消火設備1<令10~12、19、20>(4H)		
		消火設備2<令13~18>(4H)		
		設備規制の概要(3H)		
		避難設備等<令25~29の3>(4H)		
		火災予防条例<1章~3章>(4H)		
		少量危険物<4章~7章>(3H)		
危 険 物 規 制	製 造 所 等 に 対 す る 規 制 と 査 察 要 領	製造所等の保安管理に関する査察着眼点	3	消防職員
		製造所等の位置・構造・設備に関する 査察着眼点		
		製造所等の貯蔵・取扱いに関する査察着眼点		
		危険物施設ごとの査察着眼点		
違 反 処 理	違 反 処 理 違 反 処 理 要 領 危 険 物 取 扱 者 及 び 消 防 設 備 士 対 する 行 政 措 置 不 服 審 査 手 続	違反処理の概要	4	消防職員
		違反処理の手続		
		違反処理の際の基本的留意事項		
		違反処理マニュアル		
		危険物取扱者免状及び消防設備士免状の 返納命令に関する運用基準		
査 察 実 習	防 火 対 象 物	防火対象物の査察	7	消防職員
		建築・設備図書の見方	7	学校職員
		査察シミュレーション実習		
事 例 研 究	実 務 研 究 課 題 討 議	住宅用火災警報器普及広報事例	5	学校職員
		違反処理事例		
		消防用設備設置指導事例		
		災害事例		
訓 練 礼 式	点 検 ・ 礼 式	点呼、点検要領	1	学校職員
効 果 測 定			1	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合 計			70	

③ 火災調査科

自 令和 8年12月 7日 (月)
至 令和 8年12月18日 (金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		職責と心構え	1	学校職員
関 係 法 規	火 災 原 因 調 査 規 消 防 関 係 法 規	火災調査の概念と根拠	4	消防職員
		消防及び警察の協力		
		放失火捜査と公判	2	消防職員
原 因 調 査	現 場 調 査	原因調査の項目、手段	7	消防職員
		現場調査の進め方		
		燃焼理論と火災の特性		
	原 因 調 査 の 要 領	焼けの強弱と方向性の観察	7	消防職員
燃焼機器、電気火災				
車両火災、化学火災				
損 害 調 査	損 害 調 査 の 内 容	微小火源、放火等	7	消防職員
		損害の種別と損害調査項目	7	
		焼損程度とり災程度		
	損 害 調 査 の 進 め 方	火災による死傷者	7	
		現場調査の進め方		
損害額の評価と算定	7			
調 査 実 習		模擬火災調査	7	消防職員 学校職員
調 査 書 類		調査書類の作成要領 1	4	消防職員
		調査書類の作成要領 2	6	学校職員
事 例 研 究	実 務 研 究 課 題 討 議	特異火災事例	6	
		調査書類作成事例		
		訴訟事例		
訓 練 礼 式	点 検 ・ 礼 式	点呼、点検要領	1	学校職員
効 果 測 定			1	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合 計			70	

④ 救急科

自 令和 8年10月 5日 (月)

至 令和 8年11月27日 (金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師	
救急業務及び救急医学の基礎	救急業務の総論及び医学概論	救急業務の沿革及び意義、救急隊員の責務等	4	学校職員	
		救急医療の現状	2	県職員	
		救急医療、救急へり、MC体制	4	医師	
		医学概論	2		
	解剖・生理	総論及び身体各部の名称、皮膚系、筋骨格系、呼吸系、循環系、泌尿系、消化系、神経系、感覚系、内分泌系、生殖系、その他の系	3	消防職員 学校職員	
		28			
	社会保障・社会福祉	社会保障の概念、社会保障及び社会福祉の関係法規、社会福祉体制、医療保険	6	医師	
救急実務及び関係法規	救急業務の関係機関、救急業務の関係法規 死亡事故の取扱い、救急活動の通信システム及びその運用、救急活動の基礎的事項、救急活動の記録	4 2	学校職員		
応急処置の総論	観察 I	血圧、脈拍、循環の観察	2	消防職員	
	観察 II	呼吸の観察、体温、その他	1		
	観察 III	全身・局所所見の把握、障害の受傷機転、既往症等の聴取	2	医師	
			2	学校職員	
	検査	一般検査、生理学的検査、検査機器の原理と構造、保守管理	3	医師	
	応急処置総論	救命の鎖、ドクターカー、ロード&ゴー、応急処置に際しての留意点	4		
	応急処置各論	気道確保、異物除去、人工呼吸、胸骨圧迫心マッサージ、酸素吸入、直接圧迫及び間接圧迫による止血、被覆、副子固定、在宅療法継続中の傷病者搬送時における処置の維持、保温、体位管理	16	医師 学校職員	
			女性傷病者に対する接遇、観察、処置	2	消防職員
			各種搬送、救出、車内看護	20	学校職員
	多数傷病者事故災害対応	プレホスピタルケア、救急医療体制、集団災害、トリアージタグ記載要領	11	医師、看護師 消防職員	
		多数傷病者発生事故の対応			
救急資器材	観察用資器材、呼吸循環管理用資器材、創傷等保護用資器材、消毒用資器材、その他の応急処置用資器材、搬送・保温用資器材、救出等に必要資器材	4	消防職員		
感染防止と消毒	感染防止、消毒	2	医師		

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
病態別 応急処置	心 肺 停 止	原因、病態生理、病態の把握、応急処置、病態の評価	4	医 師
	シ ョ ッ ク ・ 循 環 不 全	〃	3	
		〃	2	消防職員
	意 識 障 害	〃	3	医 師
		〃	2	消防職員
	喀 血 ・ 吐 血 ・ 下 血	〃	3	医 師
		〃	1	消防職員
	一 般 外 傷 (頭部外傷、頸椎損傷含)	〃	4	医 師
		〃	4	消防職員
	熱 傷 ・ 電 撃 傷	〃	3	
	中 毒	〃	3	
溺 水	〃	3		
異物(食道・消化器)	〃	2		
特殊病態別 応急処置	小 児 ・ 新 生 児	小児及び新生児の基礎的事項、症状からみた小児救急疾患の重傷度判定、小児の事故、心肺蘇生法	6	医 師
	高 齢 者	高齢者の基礎的事項、ショック、保温、意識障害、頭痛、胸痛、呼吸困難、その他の疾患	3	
	産 婦 人 科 ・ 周 産 期	産婦人科及び周産期の基礎的事項、救急と関連する婦人科疾患、分娩の介助、分娩直後の新生児の管理	5	
	精 神 障 害	精神科救急の基礎的事項、精神科救急への対応、病態の評価、精神科の治療	3	
	そ の 他 の 創 傷 等 の 処 置	切断四肢の取扱い、多発外傷、鼻出血、眼損傷、口腔損傷、日(熱)射病、寒冷損傷、爆傷、酸欠、急性放射線障害、動物による咬傷、刺傷	4	
		海洋性有害生物による咬刺傷、減圧症	4	
実 習	シミュレーション実習①	傷病別応急処置実習、想定付与による応急処置実習、医療機関との連携等	25	医 師 消防職員
	シミュレーション実習②	JPTEC総論、外傷観察、処置、救出固定・装着等 (JPTEC7 ロバットコース)	8	
	病 院 実 習	応急処置等実習	2	医 師
	実 務 研 修	救急車同乗実習	14	消防職員
効 果 測 定	入 校 時 考 査 (学 科、実 技)	救急知識、応急処置等技術	4	学 校 職 員
	中 間 考 査 (学 科)		1	
	修 了 前 考 査 (学 科、実 技)		7	
訓 練 礼 式	点 検 ・ 礼 式	礼式の目的、点検要領	2	
消 防 体 育	体 力 測 定	身体能力等の測定	3	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、刈エンテーション、環境整備	7	
合 計			259	

⑤ 救助科

自 令和 9年 2月 9日 (火)

至 令和 9年 3月10日 (水)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		職責と心構え	1	学校職員
倫 理		救助隊員の心構え	1	
訓 練 礼 式	点 検	点呼要領、救助隊点検	2	
安 全 管 理	救 助 活 動 に お け る 安 全 管 理	訓練時、現場活動時の安全管理体制	4	
		訓練実施者の配置位置		
		事例研究	3	
		交通事故対策	3	
		メンタルヘルス対策	2	外来講師
予 防	消 防 用 設 備	救助隊に必要な消防用設備の概要	2	学校職員
現 場 指 揮	災 害 現 場 の 指 揮	現場指揮者の心構えと任務	2	
災 害 救 助 対 策	救 助 対 策 と 活 動 事 例	救助業務関係法令	2	消防職員
		救助力学	3	
		震災対策 狭隘及び瓦礫救助	2	
		ガス事故対策と事例	2	外来講師
		爆発物事故対策と事例	2	
		電気事故対策と事例	2	
		毒劇物事故対策と事例	2	
		エレベーター事故対策と事例	3	
		シャッター事故対策と事例	2	
		ハイブリッド自動車事故対策	2	
		火災救助対策と事例	2	消防職員
		交通事故救助対策と事例	2	
		倒壊建物救助対策と事例	2	
		機械挟まれ救助対策と事例	2	
		自然災害救助対策と事例	2	
救 急	外 傷 処 置	全身観察、処置、全脊柱固定要領	4	学校職員
		多数傷病者発生時の処置		

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
救 助 訓 練	活 動 基 本	座席・身体懸垂降下、救助工作車資機材取扱	3	学校職員
	資 機 材 取 扱	重量物排除、破壊、切断用救助資機材取扱	4	消防職員
		編みロープを使用した救助	4	
	高 所 救 助	梯子水平救助1法、2法	4	
		斜めブリッジ救助	4	
		宙吊り救助、柱上救助	4	
		応急梯子救助、積載梯子取扱訓練	4	
	低 所 救 助	梯子クレーン救助1法、2法	4	
		立て坑救助、横坑救助	4	
	火 災 現 場 対 策	濃煙検索救助、注水及び進入要領	4	学校職員
		実火災訓練（ホットトレーニング）	4	
震 災 対 応 訓 練	狭隘空間活動訓練（CSR）	4	消防職員	
	USAR（リフティング・ムービング）、高度救助資機材	4		
交 通 事 故 対 策	衝突、下敷き、横転事故対応訓練	4		
総 合 訓 練	他部隊との連携訓練	梯子車活用訓練	3	学校職員
	想 定 訓 練	応用訓練	7	
		学生企画訓練	7	
消 防 体 育	体 育 理 論	メンタルトレーニング、ストレッチ等	1	学校職員
	体 力 測 定	身体能力等の測定	2	
効 果 測 定	学 科 考 査	救助理論効果測定	1	学校職員
	実 科 考 査	救助実技効果測定	4	
そ の 他	行 事	入校式、修了式、オリエンテーション、資器材整備	4	
合 計			140	

(3) 幹部教育

① 初級幹部科

自 令和 9年 1月18日(月)

至 令和 9年 1月29日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		公務員倫理と消防職員の倫理	1	学校職員
		初級幹部としての職責と心構え	2	外来講師
訓 練 礼 式	点 検 、 礼 式	礼式の目的、指揮要領	2	学校職員
消 防 時 事	消防行政の現状と課題	予防行政の現状と課題	2	学校職員
		警防行政の現状と課題	2	消防職員
		救急業務の現状と課題	2	消防職員
	消 防 法 令	消防関係法令の改正内容	1	学校職員
消 防 財 政	国 と 地 方 の 関 係	財政における国と地方の関係	2	外来講師
	財 政 の し く み	地方財政と消防財政の仕組み		
	消 防 財 政	消防財政の現状と課題		
人 事 業 務 管 理	組 織 と 監 督	組織と人間関係（上司・同僚・部下との関係）	3	外来講師
		責任と権限（階級制度）	2	学校職員
	事 故 防 止	交通事故対策	2	
	人 権	同和問題	2	
		男女共同参画		
		ハラスメント防止		
	情 報 公 開 と 個 人 情 報 保 護	情報公開制度、個人情報保護制度	2	消防職員
健 康 管 理 指 導	健康管理指導（メンタルヘルス対策）	2	外来講師	
安 全 管 理	安 全 対 策	公務災害の発生状況と傾向	6	学校職員 外来講師
		組織における安全管理体制		
		災害現場における安全管理体制		
		安全管理実務訓練		
現 場 指 揮	災 害 現 場 の 指 揮	現場指揮者の心構えと任務	20	
		現場指揮本部の重要性と効果		
	現 場 指 揮 要 領	火災防ぎょ指揮要領と留意点		
		水災・救助・救急等の指揮要領と留意点		
事 例 研 究	実務研究課題討議	法制事例研究（訴訟等）	3	外来講師
		ファシリテーション技法	4	外来講師
		安全管理事例	3	学校職員
		特異災害事例		
		苦情事例		
効 果 確 認	総 合 訓 練	現場指揮要領、検証	4	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合 計			70	

② 上級幹部科

自 令和 8年 6月 3日(水)

至 令和 8年 6月 5日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
管理職の役割		上級幹部としての職責と心構え	2	学校職員
業務管理	地方自治	地方自治の現状と課題	2	
	消防行財政	消防行財政の現状と重点施策		
	情報政策	情報公開と個人情報保護		
人事管理	人事管理	職場のメンタルヘルス	2	外来講師
	人権	人権施策、ハラスメント防止	2	消防職員
危機管理	安全・危機対策	危機管理論、情報分析	2	外来講師
		安全管理論	1	学校職員
事例研究	班別討議	消防本部運営事例研究(苦情処理、訴訟等)	2	消防職員
		部隊運用等事例研究(各種災害等)	2	
	全体討議	各種法令事例研究	3	外来講師
行事その他		入校式、修了式、オリエンテーション	3	学校職員
合 計			21	

(4) 特別教育

① 水難救助研修

自 令和 8年 9月29日 (火)
至 令和 8年10月16日 (金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
安全管理	救助と安全管理	水難救助活動における安全管理と事故処理	3	外来講師 学校職員
水難救助対策	水難救助計画	水難救助計画と部隊運用	3	消防職員
潜水理論	潜水業務の基本	基礎知識、潜水の物理学、潜水環境	15	外来講師 消防職員 海上保安庁
		送気・潜降・浮上、水中ナビゲーション		
		潜水の生理学、潜水障害とストレス		
		関係法規等		
溺者救助訓練	溺者救助法	溺者救助法、離脱法、搬送法、器具取扱	7	消防職員
器具取扱訓練	水難救助器具	通話装置、救命ボート、浮標	4	消防職員
	取扱訓練	水中投光器、救命胴衣等		
潜水基本訓練	スキューバダイビング	三点セット使用法等	20	消防職員
	スキューバダイビング	装着離脱法、飛び込み法、全装備泳法等		
基本訓練	水難救助基本訓練	地上部隊との連携訓練	11	海上保安庁
総合訓練	水中検索訓練	各種結索法、アンカー設定要領等	14	外来講師 消防職員 海上保安庁
	想定実践訓練	関係機関との連携総合訓練		
効果測定	学科考査、実科考査	水難救助理論、水難救助実技	6	
訓練礼式	点検・礼式	点呼、点検（通常点検・現場点検）	3	学校職員
行事その他		入校式、修了式、オリエンテーション、環境整理	5	
合計			91	

② 防火管理指導員研修

自 令和 9年 2月 1日(月)
至 令和 9年 2月 5日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
訓練礼式	点検	点呼、点検要領	2	学校職員
防火管理者制度	防火管理者制度	職場における自衛消防隊とその訓練の進め方	3	
	自衛消防訓練	自衛消防指導要領	7	
自衛消防実習	訓練礼式	各個訓練	2	
	消火・避難訓練	消火器、避難器具、屋内消火栓操法等	6	
	総合訓練	通報・消火・避難誘導訓練等	6	
効果確認		各種訓練ごとの討議	6	
行事その他		入校式、修了式、オリエンテーション、環境整備	3	
合計			35	

③ 新任救急隊員（救命士）研修

自 令和 8年12月14日(月)
至 令和 8年12月23日(水)

座学				
教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
メディカルコントロールと救急救命処置	メディカルコントロールの活用	メディカルコントロールとオンラインでの傷病者情報の効率的な伝達	1	医 師
気管挿管及び薬剤投与の実際	気管挿管及び薬剤投与の原則	気管挿管及び薬剤投与に必要な機能と構造	3	
心肺停止前後の病態	心肺停止に至る病態	循環・呼吸不全、気道閉塞による心肺停止	2	
	心肺停止蘇生後の病態	心肺停止蘇生後にみられる種々の病態		
気管挿管、薬剤投与が適応となる心停止の病態	心室細動/無脈性心室頻拍	心室細動/無脈性心室頻拍の原因となる病態	1	
	無脈性電気的活動/心静止	無脈性電気的活動の原因となる病態		
糖尿病・低血糖の病態と治療	糖尿病の病態	糖尿病の病態と治療（血糖降下療法など）	3	
	ブドウ糖投与手順	ブドウ糖の投与と合併症		
	意識障害者の観察	意識障害をきたす疾患とその鑑別		
ショックの病態と治療	各ショックの病態と治療	ショック・クラッシュ症候群の病態と治療	3	
	原因別分類・鑑別と輸液効果	ショックの鑑別と輸液の効果		
	輸液と生体反応と合併症	生体に対する輸液とその合併症		
災害医療	災害時医療連携	多数傷病者対応概論	1	
接遇要領	コミュニケーションスキル	救急現場における接遇要領	3	外来講師
救急実務	メディカルコントロール	メディカルコントロールの活用	1	消防職員
気管挿管・薬剤投与プロトコル	気管挿管・薬剤投与の適応と禁忌	気管挿管のプロトコルの遵守	1	学校職員
		入校時効果測定	1	
効果測定	学科考査	入校時プレテスト（筆記試験）	1	
		気管挿管・薬剤投与、処置拡大内容含む学科試験	1	
実習				
教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
効果測定	入校時効果測定	入校時プレテスト（実技試験）	2	学校職員 消防職員
静脈路確保と輸液に関する基本手技	心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の手技	心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の実際	1	学校職員
		ブドウ糖溶液の投与の実際		
		静脈路確保と輸液でのトラブルに対する対応		
気管挿管、薬剤投与に関する基本手技の実習	薬剤の保管・管理	薬剤の保管・管理、取り扱いの実際	6	学校職員
	薬剤投与の準備	病院内を想定した薬剤投与の準備		
	人形を用いた気管挿管・薬剤投与のトレーニング	病院内を想定した薬剤投与の実施、院外心肺停止事例を想定した気管挿管・薬剤投与の実施		
血糖測定に関する基本	測定器の取り扱い	機器取り扱いの実際	2	医 師 消防職員
	血糖測定の手技	血糖測定の手技の実際		
シミュレーション等による気管挿管、薬剤投与実習	気管挿管・薬剤投与プロトコルの実施	連携を想定した気管挿管・薬剤投与の基本プロトコル実習	4	消防職員 学校職員
		事例呈示による気管挿管・薬剤投与シミュレーション実習		
血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖投与	血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖投与	意識障害鑑別、血糖測定判断、プロトコルの実施	4	消防職員 学校職員
心肺機能停止前の静脈路確保と輸液	ショックの判断、病態鑑別プロトコルの実際	ショックの病態鑑別と輸液等のプロトコルの実施	4	
多数傷病者事故対応	災害時 DMAT 連携	多数傷病者発生時の活動要領	3	医 師 消防職員 学校職員
効果測定	学科考査、実技考査	気管挿管・薬剤投与及び処置拡大内容を含む基本手技の実技試験	4	学校職員
訓練礼式	点 検	点検要領、点呼要領	2	
行事その他		入校式、修了式、刈エンテーション、環境整備	3	学校職員
合 計			56	

④ 救急隊長研修

自 令和 9年 1月25日(月)

至 令和 9年 1月29日(金)

座学				
教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講話	業務講話	メディカルコントロールの意義、役割	1	医師
消防実務管理	実務管理	消防救急業務の問題点とその対応策	1	消防職員
救急隊長要務	隊長要務	救急隊長の責務	1	
接遇要領	コミュニケーションスキル	救急現場における接遇要領	2	外来講師
現場管理	コミュニケーションスキル	外国人対応	2	消防職員
現場管理	情報収集伝達	指令センターとの連携	1	外来講師
惨事ストレス	惨事ストレス対策	惨事におけるストレス対策	2	医師
救急行政訴訟	救急行政訴訟	救急業務と法律問題	2	外来講師
教育技法	指導要領	教育心理学、リーダーシップと部下指導	3	
技能管理	訓練企画Ⅰ	救急実技訓練の企画①	1	学校職員
DMAT連携	災害医療連携	DMATと消防機関の連携	1	
救急実務	メディカルコントロール	メディカルコントロールの活用	1	
実習				
教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
安全管理	安全対策	安全管理概論、事故対策	3	学校職員
訓練企画Ⅱ	訓練企画Ⅱ	救急実技訓練の企画②～③	2	医師 消防職員 学校職員
技能管理	訓練運営①～③	救急実技訓練の運営	3	
多数傷病者事故対応概論	多数傷病者事故対応	多数傷病者事故対応指揮要領、情報伝達要領	2	
オンラインメディカルコントロール	病院連絡要領	救急活動における医療機関への情報伝達要領	2	
効果確認	課題研究	課題研究発表	2	学校職員
訓練礼式	点検	点検要領、点呼要領	1	
行事その他		入校式、修了式、オリエンテーション、環境整備	2	
合計			35	

⑤ 機関（指導員）研修

自 令和 9年 3月15日(月)

至 令和 9年 3月19日(金)

教科目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講話		職責と心構え	5	学校職員 外部講師
訓練礼式	点検・礼式	機関員に必要な訓練礼式		
教育技法	指導技術	指導者の心得、機関員育成方法	2	学校職員
安全管理	機関員の安全管理	機関員の安全管理（KYT） 交通事故防止対策	2	
交通法令	交通関係法令	緊急自動車の要件、特例 事故発生時の対応	3	外部講師
点検整備	点検整備技術	車両、ポンプの点検、整備		
車両運行技術	車両特性	車両特性、車両感覚	2	学校職員
	操縦技能	操縦技能訓練		
ポンプ運用理	水力学	ポンプ運用に関する水力学	3	外部講師
	ポンプ運用	ポンプの構造、運用理論	3	
ポンプ運用技	水利部署	有圧水利、無圧水利	4	学校職員 外部講師
	送水技術	基本送水要領、長距離送水	7	
効果測定	入校時考査	事前教養効果確認	1	学校職員
行事その他		入校式、修了式、刈エンターション	2	
合 計			35	

2 消防団員に対する教育

(1) 基礎教育

第1回 自 令和 8年10月 2日(金)
至 令和 8年10月 4日(日)
第2回 自 令和 8年11月 4日(水)
至 令和 8年11月 6日(金)

教 科 目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		職責と心構え	1	学校職員
訓 練 礼 式	訓 練 ・ 礼 式	訓練礼式の目的、基本動作、点検	2	
組 織 制 度	消防団の概要・活動	沿革と組織、任免と階級、消防団業務	1	
ポ ン プ 操 法	放 水 訓 練	水利部署、ホース延長・結合・放水・収納	4	
	消防ポンプ操法の概要	概要、基本動作		
火 災 防 ぎ よ	通 論	火災の定義、消火理論と方法、防ぎよ戦術	2	
防 災	災 害 対 策	災害対策、関係法令、情報収集	2	
救 急 救 助	救 急 法	搬送法、心肺蘇生法	4	
	救 助 法	結索法、資器材取扱		
安 全 管 理	危 険 予 知 訓 練	危険要因、事故対策、事故発生時の措置	2	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	3	
合 計			21	

(2) 幹部教育

① 初級幹部科

自 令和 8年12月 2日(水)
至 令和 8年12月 4日(金)

教 科 目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		幹部としての職責と心構え	1	消防協会長
訓 練 礼 式	指 導 要 領	訓練礼式の重要性、基本動作	3	学校職員
現 場 指 揮	現 場 指 揮 要 領	現場指揮の重要性と効果	6	
	想 定 訓 練	建物火災指揮訓練		
防 災	災 害 対 策	災害対策、情報収集	2	
	住 民 指 導 要 領	消火訓練、避難訓練、救出・救護訓練	5	
安 全 管 理	危 険 予 知 訓 練	危険要因、事故対策、事故発生時の措置	2	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	2	
合 計			21	

② 指揮幹部科

自 令和 8年 7月29日(水)
至 令和 8年 7月31日(金)

教 科 目・分類指標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
講 話		幹部としての職責と心構え、組織制度	1	学校職員
訓 練 礼 式	指 導 要 領	訓練礼式の重要性、基本動作	3	
現 場 指 揮	現 場 指 揮 要 領	火災防ぎよ、水災活動、救助・救命、避難誘導、災害情報収集・伝達	10	
	想 定 訓 練			
防 災	災 害 対 策	災害対策基本法と消防団の役割	1	
		災害対応図上訓練	2	
安 全 管 理	危 険 予 知 訓 練	危険要因、事故対策、事故発生時の措置	2	
行 事 そ の 他		入校式、修了式、オリエンテーション	2	
合 計			21	

(4) 特別教育

① 現地教育（移動消防学校）

自 令和 8年 4月
至 令和 9年 3月

主 な 教 科 目		教 育 内 容	時間数	担当講師
訓 練 礼 式	訓 練 ・ 礼 式	各個訓練、敬礼動作、小隊訓練、通常点検要領	※	学校職員
組 織 制 度	消防団の概要・活動	沿革と組織、任免と階級、消防団業務		
ポ ン プ 操 法	放 水 訓 練	水利部署、ホース延長・結合・放水・収納		
	消 防 操 法 の 概 要	概要、基本動作		
火 災 防 ぎ よ	通 論	火災の意義、消火理論と方法、防ぎよ戦術		
防 災	災 害 対 策	災害対策基本法、地域防災計画の概要		
救 急 救 助	救 急 法 、 救 助 法	搬送法、心肺蘇生法、結索法、資器材取扱		

※ 教科目及び時間数は要請町村と調整

3 その他の教育（消防防災関係者）

(1) 女性防火クラブ研修

自 令和 9年 3月24日(水)
至 令和 9年 3月25日(木)

教 科 目 ・ 分 類 指 標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
訓 練 礼 式	訓 練	各個の訓練、部隊訓練	1	学校職員
火 災	防 火 対 策	消火器の取扱い、放水訓練、避難器具	5	
防 災	災 害 対 策	防災訓練、炊き出し要領	4	
救 急	応 急 手 当	心肺蘇生法、AED取扱い	2	
行 事 そ の 他		入校式・修了式	2	
合 計			14	

(2) 自衛消防隊研修

第1回 令和 9年 2月 3日(水)
第2回 令和 9年 2月 4日(木)

教 科 目 ・ 分 類 指 標		主眼とすべき教育内容	時間数	担当講師
訓 練 礼 式		各個訓練	1	学校職員
防 火 管 理 者 制 度		職場の防火管理のあり方	1	
消 火 ・ 避 難 訓 練		消火器、避難器具、屋内消火栓操法等	3	
総 合 訓 練		通報・消火・避難誘導訓練等	1	
行 事 ・ そ の 他		入校式・修了式	1	
合 計			7	

付 録

- 関係書類作成要領
- 案 内 函
- 配 置 函

関係書類作成要領

1 入校申込み書類について

消防職員等を消防学校に入校させようとする場合は、沖縄県消防学校規則第6条の規定に基づき、入校申込書と本人の履歴書を提出してください。

2 入校申込書について

(1) 申込み者は、消防職員及び女性防火クラブ員については消防長、消防団員については消防団長名となります。

(2) 入校申込者が2名以上いる場合でも、申込書は1枚でもって作成すること。

3 履歴書の作成について

履歴書の作成にあっては、タイプ浄書又はペン（ボールペン可）書（黒）により、横書きとし、数字は算用数字を用い記入する。

- | | |
|----------------------|---|
| (1) 所 属 | 消防吏員にあっては出張所（分遣所）名まで、消防団員にあっては分団名まで記入する。 |
| (2) 氏 名 | 住民基本台帳による実名とし、ふりがなをつける。 |
| (3) 生年月日 | 入校日を基準とし、元号（昭和等）年月日を記入する。 |
| (4) 現 住 所 | 主たる住居とし、緊急連絡可能な電話番号を記入する。 |
| (5) 最終学歴 | 教育基本法に定める学校を記入する。 |
| (6) 階 級 | 入校日現在の階級を記入する。 |
| (7) 採用年月 | 消防吏員又は消防団員として採用された元号年月を記入する。 |
| (8) 消防経験年数 | 入校日を基準とし採用年月から起算し、1ヶ月未満は切り捨てる。 |
| (9) 消防学校等歴 | 消防学校又は消防大学校を修了もしくは卒業した者は、期別ごとに科（課程）名を記入すること。 |
| (10) 職 歴 | 入校日から起算して、直前の勤務歴（士長昇任、警防課、予防課、民間会社、官庁等の勤務歴）を記入欄の範囲で順をおって記入する。 |
| (11) 健康状況 | 既往症有の場合は、病名等を記入する。 |
| (12) 喫煙の有無 | 有・無で表示する。 |
| (13) 特 技 | 趣味又は本人の最も得意とする技量等を記入する。 |
| (14) 資格・免許等
そ の 他 | 許可行政庁の発給する免許名、免許以外の資格名を記入する。
作成にあたっては、作成例を参考にして下さい。 |

第 号
令和 年 月 日

沖縄県消防学校長 殿

消防本部名
(消防団名)
消防長名
(消防団長名)

入 校 申 込 書

下記の者を貴校における 教育(科・研修)に入校させたいので、申し込みます。

記

番号	階級	氏名	対象		備考
			対象内容	適否	
1					
2					
3					
4					
5					

※ 対象内容は、各年度の「教育訓練実施計画」(p.5)の対象を参照し、対象適否が「否」の場合は、申込理由書を添付すること(様式任意)。

※ 行数又は行幅が過不足する場合は、適宜、行の挿入(又は削除)による対応可。その他、大幅に行数が不足する場合は別表として提出可。

(補足)

- ・ なお、今回入校希望の教育課程等について、既に消防学校又は消防大学校において、重複するカリキュラムを概ね修了している場合は、消防学校及び消防大学校の連携趣旨等に鑑み、入校を許可できない場合がありますので予めご了承ください。
- ・ また、入校決定後、教育訓練の充実強化のため、必要に応じて入校前に課題を示し、入校初日に効果測定を行う場合がありますので、予めご了承ください。

履 歴 書 (消防職員用)

所属 部署

ふりがな				生年月日	満年齢	性別	職種	写真		
氏名										
現住所等	〒	携帯		メール						
最終学歴	卒業年月日	学校名(専門学校含む)	専攻名(学部・学科等)	卒業等						
消防階級(○年○月～)		採用年月日	消防経験年数	当該科業務経験	身長	体重				
学校	No.	年月	専科等	期	職歴	No.	年月	社名・部署・役職		
消防学校歴	①				職歴 (民間等)	①				
	②					②				
	③				職歴 (消防内部) ※消防吏員のみ	①				
	④					②				
	⑤					③				
	⑥					④				
消防大学校歴	①					⑤				
	②					⑥				
健康状況等	既往症(完治等)		通院、運動制限等				アレルギー		喫煙	
特技							所属団体、学生部活動等			
資格										
免許等							調査①			
その他							調査②			

- ・「当該科業務経験年数」は入校希望教育科業務の経験年数を記入
- ・「調査①」「調査②」は別途指定する項目を記入(指定無い場合は記入不要)
- ・学校歴等に欄が不足する場合は、別紙に記載して提出(「職歴(民間等)」は直近の2件のみ可)

記入例

履 歴 書 (消防職員用)

所属 〇〇〇〇消防本部

部署 〇〇〇〇出張所

ふりがな	しょうぼう たろう			生年月日	満年齢	性別	職種	写真
氏名	消防 太郎			S58.12.28	35歳	男	消防職員	
現住所等	〒	901-1114	携帯	090-0000-0000	メール	5533bbbccc@okinawa.lg.jp		
那覇市松尾三丁目〇番 〇〇〇〇アパート 〇〇号								
最終学歴	卒業年月日	学校名(専門学校含む)		専攻名(学部・学科等)		卒業等		
	H27.03.31	〇〇〇〇〇〇大学		〇〇〇学部〇〇〇〇学科		中退		
消防階級(〇年〇月～)			採用年月日	消防経験年数	当該科業務経験	身長	体重	
消防司令補		R02.10～		R02.04.30	〇年〇月	〇年〇月	167cm	72kg
学校	No.	年月	専科等	期	職歴	No.	年月	社名・部署・役職
消防学校歴	①	H02.04	初任教育	13	職歴(民間等)	①	S60.04	〇〇工業(株)
	②	H04.10	救急科	11		②	S63.04	〇〇役所〇〇課
	③	H08.02	警防科	15	職歴(消防内部)	①	H04.04	署第1警備係
	④	H13.11	救助科	10		②	H11.04	消防副士長
	⑤	H17.08	初級幹部科	5		③	H16.04	署第2警備係
	⑥	H24.12	予防査察科	9		④	H22.04	消防士長、本部予防係主任
消防大学校歴	①	H27.06	警防科	101	※消防吏員のみに	⑤	H27.04	署第1警備分隊長
	②	—	—	—		⑥	R02.04	消防司令補、本部総務係長
健康状況等	既往症(完治等)			通院、運動制限等			アレルギー	喫煙
	胃潰瘍(R〇年完治)			〇〇ため通院中(〇回/月)、〇〇ため投薬中			甲殻類	有
特技	空手、司会業、油絵、マラソン、古典音楽					所属団体、学生部活動等	高校野球(キャプテン、インターハイ優勝)、大学野球(〇〇〇〇、〇〇〇〇)	
資格	英検2級、手話通訳、古典音楽(太鼓)師範							
免許等	大型二種自動車、救急救命士、特殊無線技士					調査①	10分	
その他	〇〇〇〇					調査②	21件	

- ・「当該科業務経験年数」は入校希望教育科業務の経験年数を記入
- ・「調査①」「調査②」は別途指定する項目を記入(指定無い場合は記入不要)
- ・学校歴等に欄が不足する場合は、別紙に記載して提出(「職歴(民間等)」は直近の2件のみ可)

履 歴 書 (消防職員以外用)

所属		部署						
ふりがな				生年月日	満年齢	性別	職種	写真
氏名								
現住所等	〒	携帯		メール				
最終学歴	卒業年月日	学校名(専門学校含む)	専攻名(学部・学科等)	卒業等				
会社名等(団員のみのみ)	会社名		住所等	TEL	メール			
消防階級(○年○月～)		採用年月日	消防経験年数	当該科業務経験	身長	体重		
学校	No.	年月	専科等	期	職歴	No.	年月	社名・部署
消防学校歴	①				職歴 (民間等)	①		
	②					②		
	③				職歴 (消防内部) ※消防 吏員の み	①		
	④					②		
	⑤					③		
	⑥					④		
消防大学校歴	①					⑤		
	②					⑥		
健康状況等	既往症(完治等)		通院、運動制限等			アレルギー		喫煙
特技						所属団 体、学 生部活 動等		
資格								
免許等						調査①		
その他						調査②		

- ・「当該科業務経験年数」は入校希望教育科業務の経験年数を記入
- ・「調査①」「調査②」は別途指定する項目を記入(指定無い場合は記入不要)
- ・学校歴等に欄が不足する場合は、別紙に記載して提出(「職歴(民間等)」は直近の2件のみ可)

記入例

履 歴 書 (消防職員以外用)

所属 〇〇〇〇消防団

部署 〇〇〇〇分団

ふりがな	しょうぼう たろう			生年月日	S58.12.28		満年齢	35歳		性別	男		職種	消防団員		写真	
氏名	消防 太郎			S58.12.28		35歳		男		消防団員							
現住所等	〒	901-1114	携帯	090-0000-0000		メール	5533bbbcc@okinawa.lg.jp										
	那覇市松尾三丁目〇番 〇〇〇〇アパート 〇〇号																
最終学歴	卒業年月日		学校名(専門学校含む)		専攻名(学部・学科等)		卒業等										
	H27.03.31		〇〇〇〇〇〇大学		〇〇〇学部〇〇〇〇学科		中退										
会社名等(団員のみのみ)	会社名			住所等	TEL	098-000-0000		メール	5533bbbcc@okinawa.lg.jp								
	〇〇〇〇(株)〇〇営業所			南風原町字喜屋武〇〇〇番地の〇 〇〇〇〇アパート 〇〇号													
消防階級(〇年〇月～)			採用年月日		消防経験年数		当該科業務経験		身長		体重						
班長			R02.10～		R02.04.30		〇年〇月		〇年〇月		/		/				
学校	No.	年月	専科等		期	職歴	No.	年月	社名・部署								
消防学校歴	①	H02.04	消防団員基礎教育		13	職歴(民間等)	①	S60.04	〇〇工業(株)								
	②	H04.10	消防団員警防科		11		②	S63.04	〇〇役所〇〇課								
	③	H08.02	消防学校初級幹部科		15	職歴(消防内部) ※消防吏員のみのみ	①	/	/								
	④	H13.11	操法科		10		②	/	/								
	⑤	—	—		—		③	/	/								
	⑥	—	—		—		④	/	/								
消防大学校歴	①	—	—		—		⑤	/	/								
	②	—	—		—		⑥	/	/								
健康状況等	既往症(完治等)			通院、運動制限等				アレルギー		喫煙							
	胃潰瘍(R〇年完治)			〇〇ため通院中(〇回/月)、〇〇ため投薬中				甲殻類		有							
特技	空手、司会業、油絵、マラソン、古典音楽						所属団体、学生部活動等	高校野球(キャプテン、インターハイ優勝)、大学野球(〇〇〇〇、〇〇〇〇)									
資格	英検2級、手話通訳、古典音楽(太鼓)師範																
免許等	大型二種自動車、救急救命士、特殊無線技士						調査①	5件									
その他	〇〇〇〇						調査②	2回									

- ・「当該科業務経験年数」は入校希望教育科業務の経験年数を記入
- ・「調査①」「調査②」は別途指定する項目を記入(指定無い場合は記入不要)
- ・学校歴等に欄が不足する場合は、別紙に記載して提出(「職歴(民間等)」は直近の2件のみ可)

年度	期	研修名

履 歴 書 (女性防火クラブ・自衛消防隊用)

団体名						
ふりがな			生年月日	満年齢	性別	
本人氏名				歳		
本人住所等	〒		携帯			役職等
	住所					
団体住所等	〒		電話			当該業務年数
	住所					
健康状況等	駆け足	大声発声	傷病、運動制限等 ※1		アレルギー	喫煙
特技(又は趣味)			不安、懸念等			
防火管理 ※2	防火対象物(消防法施行令別表第1)			防火管理者講習		
	(項)	防火対象物の区分		種別	修了年月日	修了
						免状(写)

※ 以下は、所管消防本部(局)において記載すること。

当該研修と関連する講習会、指導等(講習名、実施日、参加人数等)	実績	

※1: 教育訓練の実施や集団活動に影響する恐れのある疾病、通院、怪我、運動制限等を記載

※2: 自衛消防隊研修のみ記載(消防法の内容が分からない場合は所管消防本部(局)に確認して記載)

注: 所管消防本部(局)は申込者本人の記入内容を確認のうえ提出すること。

記入例

年度	期	研修名
令和〇年度	25	自衛消防隊研修

履 歴 書 (女性防火クラブ・自衛消防隊用)

団体名	デイケアサービス ○○○会						
ふりがな	しょうぼう こうたろう		生年月日	満年齢	性別		
本人氏名	消防 孝太郎		S51.10.3	52 歳	男		
本人住所等	〒	901-0024	携帯	090-0000-0000		役職等	
	住所	南風原町字大名○○○○ ○○○○アパート000			夜勤当直主任		
団体住所等	〒	901-0024	電話	090-0000-0000		当該業務年数	
	住所	与那原町字板良敷○○○-○			3年4ヶ月		
健康状況等	駆け足	大声発声	傷病、運動制限等 ※1		アレルギー	喫煙	
	かなり不安	可	〇〇ため通院中(〇回/月)、〇〇ため投薬中、椎間板ヘルニア(完治)		甲殻類、スギ花粉	有	
特技(又は趣味)	釣り、料理		不安、懸念等	〇〇の訓練をしたことがないので不安、軽いヘルニアがあり訓練についていけないのか不安			
防火管理 ※2	防火対象物(消防法施行令別表第1)			防火管理者講習			
	(項)	防火対象物の区分		種別	修了年月日	修了	免状(写)
	(6)項ロ	特別養護老人ホーム		甲種	R2.9.13	修了済	添付済

※ 以下は、所管消防本部(局)において記載すること。

当該研修と関連する講習会、指導等(講習名、実施日、参加人数等)	実績	有
〇〇講習会(日時:R03.5.3、参加者:〇人)、△△講習会(日時:R03.10.10、参加者:△人)、現地調査(R03.7.1-7.3、5件)		

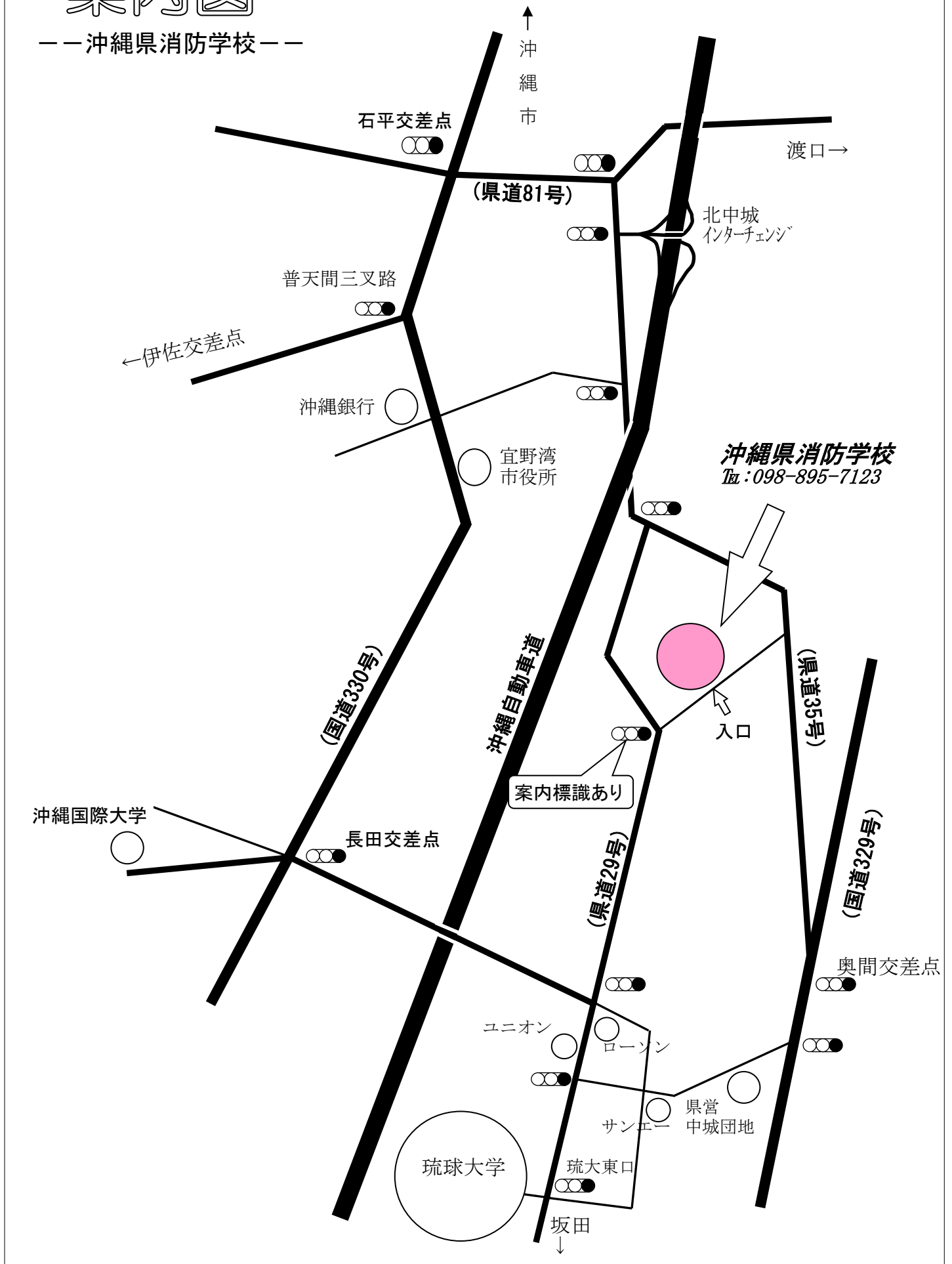
※1:教育訓練の実施や集団活動に影響する恐れのある疾病、通院、怪我、運動制限等を記載

※2:自衛消防隊研修のみ記載(消防法の内容が分からない場合は所管消防本部(局)に確認して記載)

注:所管消防本部(局)は申込者本人の記入内容を確認のうえ提出すること。

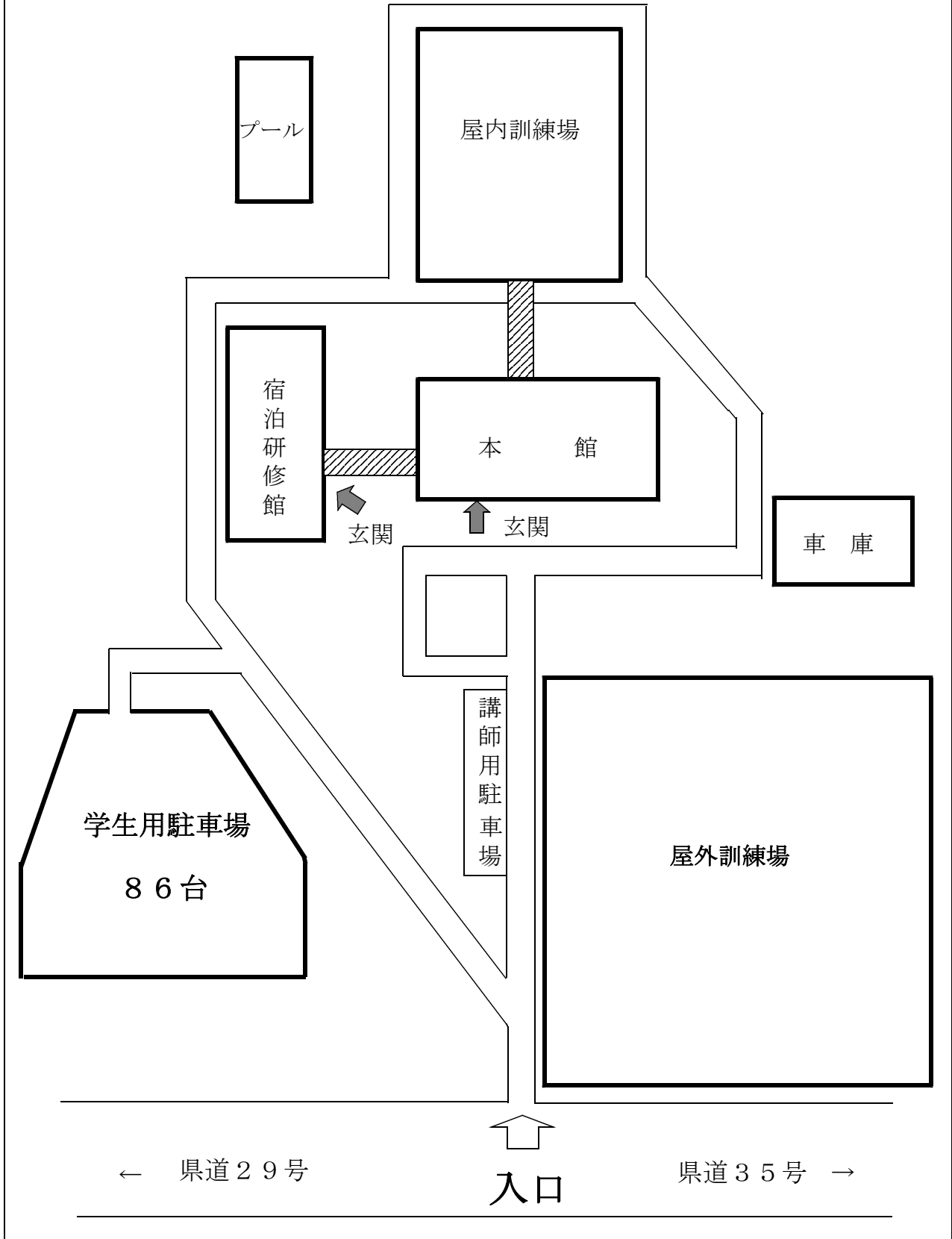
案内図

—— 沖縄県消防学校 ——



施設配置図

— 沖縄県消防学校 —



令和8年度
消防学校教育訓練実施計画

令和8年1月発行
編集発行 沖縄県知事公室消防学校
〒901-2423
沖縄県中頭郡中城村字北上原 910 番地
TEL (098)895-7123(代)
FAX (098)895-5034
学生寮 (着信専用) (098)895-6555
